

ほったにすけさいこう 特集 堀田仁助再考

— 評価されない裏事情を解き明かす —



相州浦賀で新造された朱塗唐風の「神風丸(しんぷうまる)」1460石積
(蝦夷地開発記／鈴木周助 15・16頁より画像ソフトでイメージ加工)

令和5年(2023)11月

y.arase

《3部》.

目次. 3部

[7. 史料2](#)

[《トップページへ》](#)

7. 史料 2

「蝦夷地開発記 / 鈴木周助」

堀田仁助の事蹟を実証する貴重な史料「蝦夷地開発記」とは、寛政十一年(1799)幕府の東蝦夷地上地あげちのとき、各地の緯度測量のため現地に派遣された天文御用堀田仁助門弟鈴木周助の手記。羽太のように虚偽を書く理由思い当たらず、信用できると確信。



(北海道大学付属図書館 北方資料データベースより加工引用) ←

(表紙)

「蝦夷地開発記」

寛政 己未年二月十五日 (寛政十一年 1799年)

松平伊豆守殿御渡被成候御書附

此段蝦夷地御用之御趣意者 彼地未開之地二有之 夷人共衣食住之三茂不相整 人倫之道茂不弁義 不弁之次第二付 此度御役人被遣御徳化を及し 教育をたれ
.....云々の書出しではじまります。(中略)

六月十七日江戸出帆御船政徳丸上乘

支払勘定	富山元十郎	寺沢治部右衛門
御小人目附	松田仁三郎	御小人目附 高根次太夫

六月廿七日江戸出帆御船神風丸上乘天文方

渋川主水手傳	西丸小普請方書役	桑右衛門 倅
天文御用	堀田仁助	河村五郎八
	仁助門人	浪人 深津小忠太
	見習	同 木村清蔵
	同	同 鈴木周助

六月廿七日晴未刻御船神風丸出帆二付

大茶船二艘〔但し一艘五人掛 船頭一人水主四人宛〕御用之御印を付

築地門跡へ着ス御用物積入但し御用物之御品左之通 (■茶船 河川や港で大型廻船の貨物の運送に用いた小船)

フランダ物 同断 (■同断 ほかのものと同じ)
天文御道具 イスタラビ カトラント
御遠目ガ子 御時計 御ジシャク
〆五品

於 御本丸若年寄衆立花出雲守殿より堀田仁助へ

御渡被成候其外長持一棹但し御紋付ユタン添御
絵付御紋付高張二御紋付箱燈灯二其外堀田仁助
持参之品左之通

象眼義 二糸義 渾天義
天球 地球 星目鑑 [其外コマゝ十三品]

右茶船江積入其外堀田仁助荷物并 弟子共之荷物等積入申刻南風強二付築地稻荷橋江舟相廻ス
夜二入

翌廿八日暁方順風二乗出し品川沖二懸在候
神風丸江乗移候

神風丸御船今年相蒞浦賀二おみて出来スル新船ナリ

御船之長サ十九間半(35m) 横中幅六間(10.8m) 船幅四間(7.2m) 深サ三間(5.4m) (■船 船尾)

帆柱四尺角二テ長サ十八間半、帆幅二十七反〔但し木綿三巾合テ帆布一反トス〕

長サ十四広がる三尺五寸〔但し一廣五尺宛〕 船帆柱二本立

船(とも)帆長二丈五尺横幅廣幅木綿八反宛有

船先(へさき)二矢(や)帆(ほ)立

船先帆長一丈五尺横幅唐幅木綿三反ナリ

傳馬船長六間真中幅七尺二寸是も相蒞(そうしゅう)浦賀
二て出来(しゅったい)ス

御船神風丸朱塗唐船造り左之品カサリ置

五色之吹流一本御船御用と書し幟(のぼり)二本神風丸

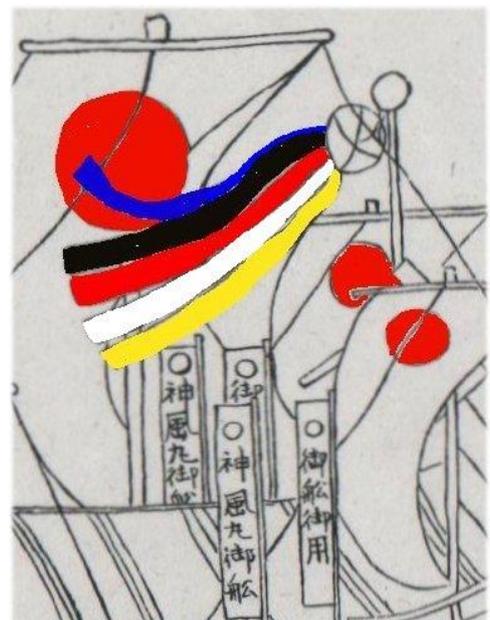
御船と書しノホリ二本帆四本立

船(とも)帆長二丈五尺横幅廣幅木綿八反宛有

船先(へさき)二矢(や)帆(ほ)立

船先帆長一丈五尺横幅唐幅木綿三反ナリ

傳馬船長六間真中幅七尺二寸是も相蒞(そうしゅう)浦賀二て出来(しゅったい)ス
御船神風丸朱塗唐船造り左之品カサリ置



4:

五色之吹流一本御船御用と書し^{のぼり}幟二本神風丸御船と書しノホリ二本帆四本立

上乘天文方御用堀田仁助 同門弟四人 川村五郎八 深津小忠太 木村清蔵 鈴木周助 其外召使三人 上下^メ八人 御船頭三人 御船手頭向井将監殿組同心長川仲右衛門 長蔵長三郎 小野覚五郎 ^{ならびにかこ}并 水主十七人 舟大工壱人 伊豆国^の之者作次郎 ^{しんしゅう}信 荔木曾^の者^{そま}杣壱人三右衛門遠 荔より^{そま}杣壱人久蔵 右兩人ハ於蝦夷地椎茸出生見分之由 都合三十一人乗 御船千四百六十石積也 御船御用と書し^{のぼり}幟二本 神風丸御船と書しノホリ二本

三月十三日の幕命より 104 日経て いよいよ^{しゅったつ}出立

堀田仁助は三月十三日の幕命より、出立する三ヶ月もの期間、幕府との交渉、幕府からの指示、渡航に際しての測量器具の準備等の事情については一切触れていない。一方、伊能忠敬は「測量日記」などに見える幕府との交渉のほか、いろいろなことを筆まめに詳細に記録しており、常に移り変わる交渉の環境その時々^の状況の場面を明らかにしている。仁助の自筆文書例えば、測量日記などは残されていないので、仁助の“事に対する決意”、“心情”などは不詳である。しかも、一世一代の仕事をするのに日記なり、記録を残すこともしなかったのか、それとも霧散したのか誠に不可思議です。



(蝦夷地開発記 / 鈴木周助 15・16 頁より 画像ソフトでイメージ加工)

帆に日の丸をかたどった幕府船としては、『北海道大学附属図書館北方資料室所蔵の鈴木周助 『蝦夷地開発記』(1799 年・寛政 11)』に描かれた神風丸の例がある(図 2)。1799 年(寛政 11) 6 月 27 日に江戸を出帆し、東蝦夷地アッケシに 8 月 29 日入津した。天度測量のため天文方が乗り組んでいた。

同書の説明によると、神風丸は「朱塗唐船造り」で、1460石積の船であった。右図2にも船体部分に朱と記し、赤船であったことがわかる。また、帆が4本あり、いずれも「日ノ丸」の帆印であった。

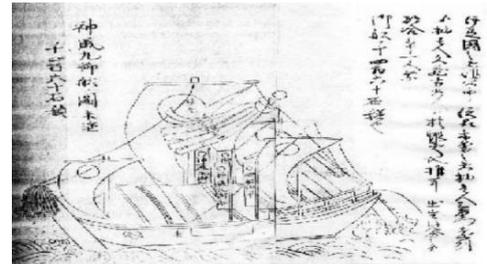


図2 御用船神風丸 『蝦夷地開発記』所収。北海道大学附属図書館北方資料室所蔵。

宮古/アッケシ/松前/三厩（みんまや）位置関係と正徳丸・神風丸両船の航路想像図



- 政徳丸 黄色線航路（地乗り航法）
- 神風丸 青色船航路（沖乗り航法）

堀田仁助の痕跡・事蹟

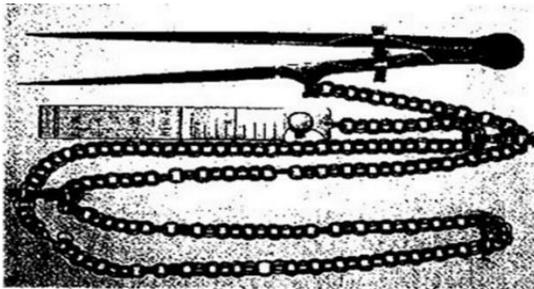
島根県有形文化財に指定 堀田仁助制作 左天球儀(てんきゅうぎ)・右地球儀(ちきゅうぎ)



津和野町 太鼓谷稲成神社所蔵

[津和野文化ポータル](#) 堀田仁助 ほった にすけ Hotta Nisuke (1745-1829) より引用

堀田仁助所蔵 日本学士院寄贈



堀田仁助旧蔵のコンパス (江戸時代後期) (日本学士院所蔵)。



堀田家に伝来したヨーロッパ製世界地図の複写図。図中の文字はロシア文字で書かれている。原本は大黒屋光太夫の帰国(1792)に際して携行されたロシア地図と想定されている(日本学士院所蔵)。
写真上のコンパスと共に堀田末吉氏より日本学士院に寄贈された。

レディス益田発行「ふるさとの人物伝 12」12」天文測量家 堀田仁助 (1745~1829) より引用

6:

伊能忠敬 測量日記 第1巻

蝦夷地（第一次）測量幕府への交渉記

寛政十二年^{かのえさる}庚申。二月十五日作左衛門（高橋至時の通称）と伊能忠敬との手紙のやり取りから幕府への交渉が始まる。

- 四月七日の条に生々しい記述あり。（本12頁～14頁参照）
- 測量日記 第1巻 蝦夷地（第一次）測量幕府への交渉記 四月七日の条（11頁）

控罷有候其内に、靈巖島蝦夷会所掛の柄原屋角兵衛に落合、知る人となる。一同に夜食被下八ッ半過、細見権十郎殿御案内被下、信濃守様御居間の奥の間へ罷出る。細見権十郎と一同に次の間に座、松平信濃守様、御勘定御奉行石川将監様、御目附羽太庄左衛門様御列席に而、先信州様周天度を御尋、それより北極度測量を御尋候後、被仰候は、先達而乗船え夷測量御用不相勸候儀を御尋に付、海上測量は不得手之上、長々之船中難渋之段申上候。其後被仰候は、海上測量は向後御船通行之為、堀田仁助へ申付測量為致候。是も帰は乗船不致、陸を帰候は不埒之よし被仰候而、陸地にては、中々海路は相知れ申間敷被仰候間、御答申上候は、蝦夷地より奥州、常陸、上総、下総、房州御当地迄、海辺北極度方位連測仕候得ば、海上之測量と違、真の方位里数海路相分り候段申上候。堀田仁助を存居候哉と再三被仰候間、存

11

四月七日の条 上段

に付、渡辺清蔵殿態々様子御尋に御遣し被下候。同日 御目附羽太庄左衛門様より高橋様へ御状。伊能勘解由事、来る七日四ッ時松平信濃守宅寄合へ御差出し可有之候。以上。

四月四日 羽太庄左衛門
高橋作左衛門様

此日、高橋様御講釈日に行、八ッ頃罷越候所、只今羽太様御状參候様被仰候。

同五日 我等松平信濃守様へ罷出候付添人之儀、羽太様へ乍御相談御登城之所、羽太様日御登城無之、細見権十郎様へ御談被遊候よし。何れ此度は付添士可被遣おぼし召に付、六日浅草へ參上。御付添奉太殿にも申合、八丁堀中の橋に而待合候積り。

同七日 五ッ頃深川を出、四ッ頃過奉太殿待合せ。一同に松平信濃守様御宅に罷出。奉太殿、細見権十郎様を御呼出し申、口上を演て直に帰申候。八ッ半迄差

弁可被下と申上候。御勘定奉行石川将監様、最初より何共不被仰、書ものを被遊候而御座ありしが、我等へ御向、扱其許天文に委しとのみ思いに、代々家柄に而、其村方は不及申、外々迄も仁情のよし、左様なるものを蝦夷地へ遣し不測量不為致候様にと存候には、来春まで相待候方宣儀と我等は存するなりと、御懇意の御一身に染み難有存じ候。それより信濃守様御自身蝦夷之図を二枚御出し被遊、此内一枚は堀田仁助が去年致す所なり。鹿なるべけれ共、大差もあるまじ、外一枚を添化し遣候間、何れにても測量可宣所へ下げ札致し、差出し候様に被仰付候御徒目附細見権十郎様、側より蝦夷の様子委細に物語んとて、最初控居候小座敷にて、蝦夷地船継送の差支に成候筋御はなし被成下、今日御渡し被遊候絵図へ下げ札致し、靈巖島蝦夷会所へ持参、下勘定所へ相届候様可致被仰候間、下勘定所と申候而も、私共には相分り不申候間、細見様御姓名に而差上候而

12

四月七日の条 下段

- 測量日記 第1巻 蝦夷地（第一次）測量幕府への交渉記 四月七日の条（12頁下段）
- 4月7日の条 12～13頁に堀田仁助の名前が3ヶ所みえる。
伊能忠敬の測量日記に堀田仁助の名前が出てくるとは想定外である。

- 津和野太鼓谷稲成の宮司が「仁助は忠敬の先生という説があるが」当時伊能忠敬研究会会長渡辺一郎との問答について参照。

「忠敬の師とは驚いた」「忠敬の寛政十二年の前年に船で蝦夷地測量を試みたから先輩であるが、船の移動のため忠敬のような地図はできなかった」と。

本13頁の忠敬と至時の思惑から、幕府の海路行の意向を陸路に覆して、更に天文方仁助の「ただの絵の地図」を松平信濃守は忠敬に貸与している。しかも忠敬蝦夷地行の前年にである。忠敬は「絵」であれ大いに参考にしたことであろう。

「伊能忠敬研究」第8号太鼓谷稲成神社蔵日本地理測量の図 渡辺一郎より引用 P28

だ。二人で両端を持って慎重に広げてゆく。この図は尾張までの、日本東半分を描いた東三十三国沿海地図の小図とセットで保存されていることが多いがこもそうである。二米四方くらいの沿海地図も広げる。これら二枚の伊能図は堀田仁助の写しである。

広げ終わった頃、宮司さんが現れて、堀田仁助は伊能忠敬の先生という話があるが、といわれる。これには驚いたが、「先生ではなく、先輩というべきだ」とお話ししたら納得された。

津和野藩士堀田仁助は暦数に明るく、寛政五年から暦局に出仕しており、忠敬の寛政十二年蝦夷地測量の前年に、船で蝦夷地測量を試みたから、間違いなく先輩である。ただ、船で移動したため、忠敬のような地図は出来なかった。

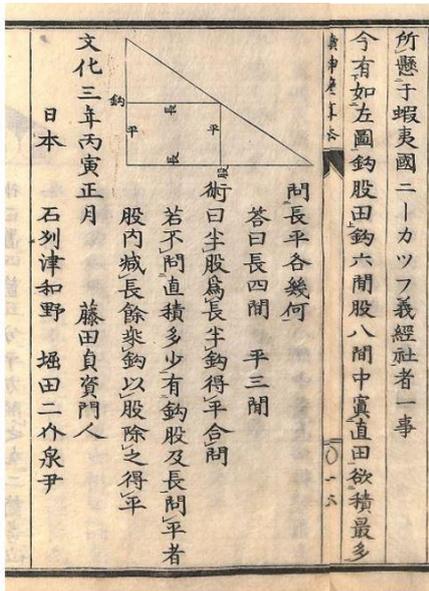
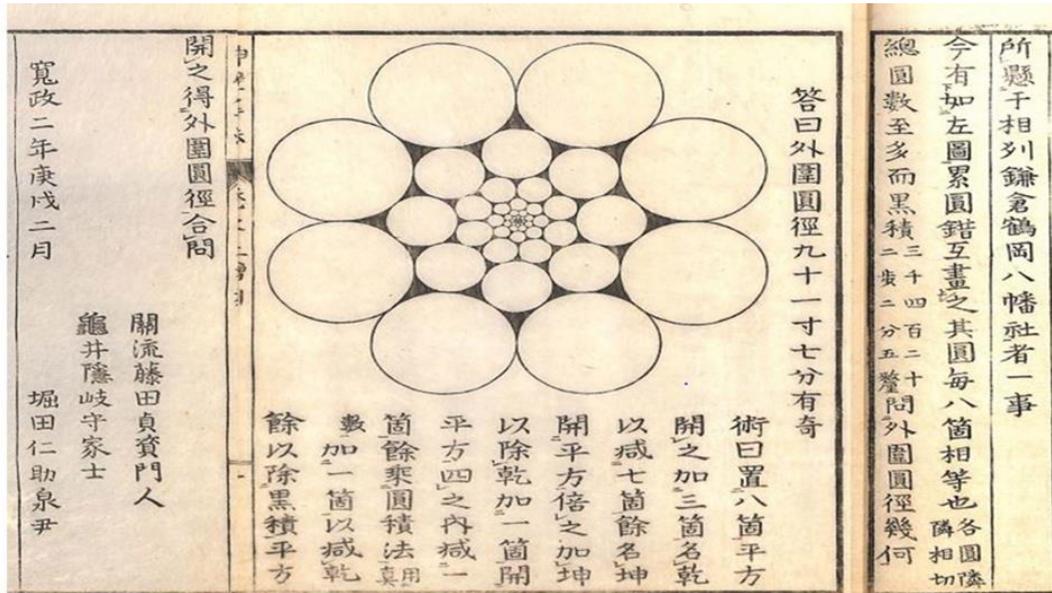
忠敬も初めて蝦夷地へ出かけるとき、船でゆくように云われたが、船でゆくとき緯度一分の計測ができないので、色々屈をつけて陸地を選んでる。その際、堀田仁助の作成した地図もみせられ、これとどう違うのかと問われている。忠敬は、多分先輩を批判せず、上手に申し開きしたと思う。

仁助は、高橋至時以前から暦局にいるから、高橋・伊能とはグループが違うように考えられる。測量日記に一ヶ所あるほかは名前が出て来ない。しかし、同じ暦局にいたのであるから、伊能測量の経過は良く見ていた筈である。神社のお話では、文政十年に帰藩の際、藩主龜井候に土産としてこの二枚の伊能図を持参し、第二次大戦後、太鼓谷稲成神社に寄付されたこと。

文政十年は、シーボルト事件前年である。暦局は混乱していない。堀田仁助は暦局の原本から写した公算が大きい。藩公への土産である。丁寧に写されている。

それにしても、仁助は藩をあとに暦局に三十年もの長い間いたこと

②鶴岡八幡宮



③ニーカップ義経社

ニーカップ義経社について

和算に長けた仁助は、蝦夷地（現在の北海道）の日高地方平取（biratori）の義経神社にも算額を奉納したとの記録がある。

平取町（びらとりちょう）は、北海道の日高振興局管内にある町。続神壁算法（しんぺきさんぼう）によれば、義経神社には、堀田仁助の奉納した算額が存在するはずである。明治期2度の水害により社が流されたが、その度に義経像は無事発見され、首長である平村ペンリウクによって現在地に遷座されたとされる。現在の義経神社はいろいろな経路を経てここへ移ってきているので、はたしてここが仁助が算額を奉納したその社であるのかどうかははっきり云って確かではない。

北海道神社庁によれば、

[義経神社の由来](#)

寛政10年(1790)の頃、幕府巡検使近藤重蔵（こんどう じゅうぞう）は、この地の先住民達が、源九郎判官義経公を慕い神と敬仰（けいぎょう）しているのを知り、小祠をハヨピラ山（神社の丘づたい東方）に祀り、後に江戸神田住 大仏工 法橋善啓に公の尊像1体を彫らしめ奉安（背面に寛政11年己未4月28日、近藤重蔵藤原守重、比企市良右衛門藤原可満の彫あり）。

10:



明治～大正時代の義経神社の社頭



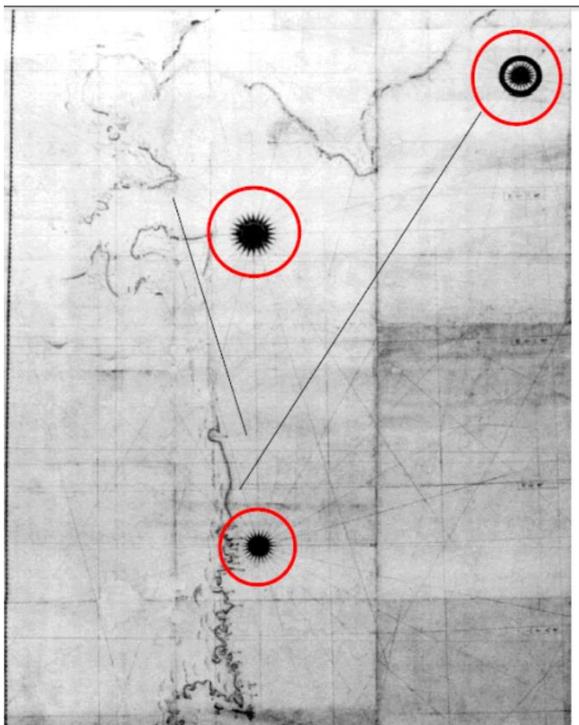
←



平取町義経神社の御神体←

[\[目次へ戻る\]](#)

堀田仁助「えどよりとうかいえぞちにいたるしんろのず従江都至東海蝦夷地針路之圖」(部分)1799年手書き



(参考文献：「日本北辺の探検と地図の歴史」秋月俊幸 P225)

天文方手伝の仁助が東蝦夷地への航路を開くために、神風丸の船上から測量した江戸から宮古までの沿海図と、陸路による蝦夷地南岸の実測図

この典拠は北海道古地図集成北海道出版企画センター/1987.9より引用されたもの。

関東以北から東北地方の太平洋岸の地形は、主として海上から観測された測量図で、わが国ではそれまではまれな測量方法による地図であった。これに陸地測量の蝦夷地沿岸図を加えたものが「従江都至東海蝦夷地針路之圖（えどよりとうかいえぞちしんろのず）」という海陸図である。

緯度線のほか古いヨーロッパの※ポルトラーノ型海図ならに倣って、いくつかのコンパス・ローズ（方位）が描かれている。

この地図によって、江戸から蝦夷地への距離と方位が大まかながら明らかになった。

堀田仁助の蝦夷地航海と東蝦夷地沿岸の測量は、天文観測が航海と測量に積極的に利用されたことによって、わが国では初めての画期的な企てであった。

静かに眠る堀田仁助の墓

津和野町 覚皇山 永明寺(かくおうざん ようめいじ)は、応永 27 年 (1420)、津和野城主吉見頼弘(よりひろ)によって創建された。江戸時代には曹洞宗の寺院として栄え、津和野藩藩主吉見、坂崎、亀井氏の代々の菩提寺でもある。



「自然石の墓」
刻字は読めない

津和野街道と結ばれた芸州廿日市・津和野藩船屋敷に生まれた堀田仁助の墓を苦労して探し訪ねた。その場所は、「旧光明寺」跡で廃寺の時期は不詳（現在の光明寺住職に確認）。

覚皇山 永寺境内外の坂道を上り詰め、草木の茂みを掻き分け標識板を左折、少し進む。さらに、仁助の墓の説明板を過ぎ、獣道のような平な細い道を行くと仁助の標木があり、狭い平らな場所に自然石の墓や一族と思われる墓が並んでいる。まったく痕跡の無い廃寺の急斜面の中腹あたりにある墓地の場所や墓石は華美には程遠く、ひっそりと佇んでいる。

「近世日本天文学史(上)」渡辺敏夫 恒星社。厚生閣 1986 年(昭和 61 年)の 397 頁に堀田仁助の記述がある。

堀田泉伊^{いずただ えんきょう}は延享 2 年 (1745) 芸州廿日市^{げいしゅうはつかいち}に生まれ、通称初め兵之助、後仁助に改めた。石州津和野藩亀井隠岐守の家来で、天明 2 年 (1782) 6 月 11 日田曆作御用手伝として渋川主水手附となり、5 人扶持を給せられ、文化 14 年 (1817) 眼氣衰え御用勤め困難となり、曆作御用手伝いを免ぜられ、文政九年 (1826) 9 月 82 歳の時、老衰病身に付願出により帰郷、同 12 年 9 月 5 日病死した。85 歳、島根県津和野廃寺光明寺に葬る。算家藤田定資の門人であった。

探していた仁助の眠る墓の寺の名が、廃寺「光明寺」と判明。

第16章 測量術と航海法 397

堀田泉尹¹¹⁾は延享2年(1745)芸州廿日市に生まれ、通称初め兵之助、後仁助に改めた。津和野藩亀井隠岐守の家来で、天明2年(1782)6月11日、曆作御用手伝として渋川主水手附となり、5人扶持を給せられ、文化14年(1817)眼気衰え御用勤め困難となり、曆作御用手伝を免ぜられ、文政9年(1826)9月82歳の時、老衰病身に付願出により帰郷、同12年9月5日病死した。85歳、鳥根県津和野町光明寺に葬る。算家藤田貞資の門人であった。

〔忠敬蝦夷地測量〕

堀田泉尹の蝦夷地図は略図に過ぎなかった。忠敬が蝦夷地測量を計画請願するに至った動機は忠敬の嗜好、功名心、至時の悠遊斡旋、天文測地学上の必要性、時代の要求等がうまく合致した結果、ここに忠敬一生の大事業の端が開かれることになった。

始め幕府は忠敬に測量器の運搬の便から、一つは海上から奥羽地方の東海岸の地形を略測させるため、海路蝦夷地へ向うよう命じた。しかし至時、忠敬の真意は上に述べたように、蝦夷地の測量とともに、その途中の里程、方位、緯度を実測して、沿道の実測図を作り、一度の里数を決定することにあつた。幕府の意に従えば、目的の大半は自然破却されるので、至時、忠敬は幾多の折衝の結果、寛政12年(1800)閏4月19日朝五ツ前(午前八時前)、深川黒江町の僑居を出発測量の第一歩をふみ出すことになった。時に忠敬56歳、これに従う者5人にすぎなかった。参考のため、第1日出発の日の日記を写しておこう。¹²⁾



図 16-2 堀田泉尹の墓碑

「近世日本天文学史(上)」渡辺敏夫 恒星社。厚生閣 1986年(昭和61年) 397頁

高橋^{よしとき}至時と伊能忠敬蝦夷地測量の請願の動機は、陸路の測量で一度の里数を決定することにあつた。幕府蝦夷地御用掛が望んだのは、前年の仁助と同様船上から方位を測りながら蝦夷地に至り、帰路も必ず船による事とした。しかし、蝦夷地御用掛は蝦夷地からの帰府陸路に拠つた為、仁助の海図に満足していなかった(「近世日本天文学史(上)」渡辺敏夫では、仁助の蝦夷地図は略図に過ぎないと云っている)こともあり、勘解由(かげゆ/忠敬)は百姓身分故、御証文(ごしょうもん)(道中の人馬を無賃で調達できる)は出せないことと、御下賜金(ごかしきん)陸上少額、大量の測量具の運搬は奥羽(おうしゅう)の領民に人馬の負担を掛けることを口実に「船便」とした。

幕府は、海路蝦夷地へ向かうよう命じたため、伊能忠敬は、海路を知るためには正確な陸地の形状が必要なことを「道中滞りなく御触れさえ下されば、自分費用で勤めると明言し、幾度の幕府との交渉で蝦夷地御用掛筆頭の松平信濃守を説得、陸路を納得させた。やはり、金がすべてを解決したのである。

14:

『加減乗除対数表』跋文(ばつぶん)

新潟県佐渡市 [相川郷土博物館](#) 所蔵の『加減乗除対数表』と題する写本

この写本は、比例部分にまで及ぶ対数表の使用法、対数表作製の原理を説いた「[藤田貞資](#)先生所術真仮数表術」対数表 などからなっている。この書には堀田泉伊の下記のような跋文（本文の後に書く文章）がある。

佐渡国阿部誠之者従余、学天文曆数有年。子蕊為身在海表、惟雁書示志然而慕余如父、余亦如子愛情不可禁、手書真仮数一卷贈之。螺嵐寄生豊得言無縁乎。

文政五年 みずのえうま 壬午 春三月

七十七歳

いづただ
堀田泉予書

とあるから、阿部誠之「校正振矩術（こうせいしんくじゅつ）」は、津和野藩士堀田泉伊（仁助）の門人であることがわかる。

（因みに、文政壬午年は文政5年（1822）である。堀田泉伊は関流四伝藤田貞資の門人で、天明2年（1782）、幕府が天文台を浅草に移したとき、天文曆作方にあげられ、寛政11年（1799）には蝦夷地の測量に従事した人物である。）

（「振矩術に関する調査研究」報告 2010 金子勉

新潟県佐渡市教育委員会社会教育課 佐渡学センターより引用）

[江戸幕府天文方 堀田仁助関係絵図調査記録 1](#)

[江戸幕府天文方 堀田仁助関係絵図調査記録 2](#)

2019年8月27日・28日、[島根県鹿足郡津和野町](#)

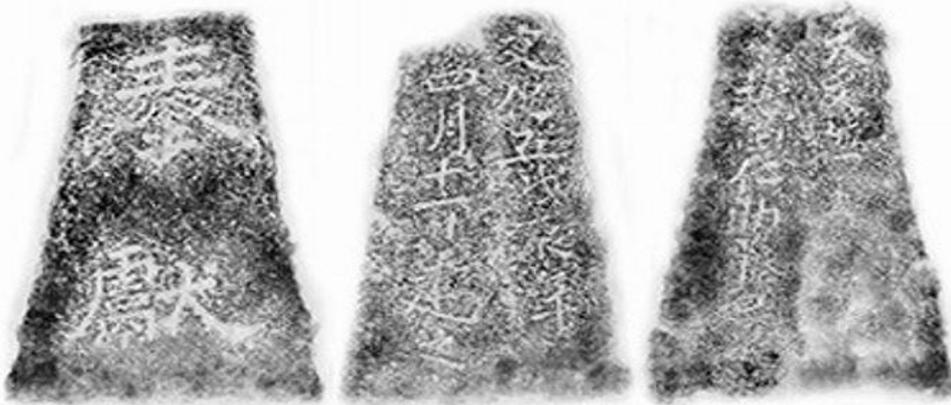
- [太鼓谷稲成神社](#)所蔵 『日本国地理測量之図』 『東三十三国沿海測量図』、
- [津和野町郷土館](#)所蔵 『從江都至東海蝦夷地針路之図』の調査

ほったにすけいずただ

堀田仁助泉尹寄進石灯籠一对 佐方八幡神社（廿日市 佐方）

拓本採取（廿日市市郷土文化研究会）

石灯籠の銘文



奉獻

文化五年戊辰年 天文生 堀田仁助藤原泉口
四月十一日建之

この石灯籠の拓本採取の方法について

「間接湿拓法（かんせつしったくほう）」は、

1. 拓本を採る目的など許可を必ず事前に取りようにする（重要）。
 2. 拓本を採る対象の石などの表面の汚れ（苔など）を水で濡らしながらたわしで擦る。
 3. 採りたい対象の上に画仙紙を置いて、霧吹きで湿らす。
 4. タンポで形にぴったり紙が張り付くように押しつけていき、画仙紙に凹凸を付ける（重要）。
 5. 紙を少し乾かしてから別のタンポに墨を付け、墨の濃淡を均一に形を紙に写し取る。また、画仙紙を強く押し付けると紙が破け易くなるので、加減しながら慎重に作業を進める（重要）。
 6. 拓本採取が終われば、拓本を採った対象の石などを水で綺麗に洗い流す。
 7. 許可を得た個人または法人に終了報告をする。
 8. 後日、採取した拓本を劣化させずに保存できるラミネート加工にする。進呈できれば尚良し。
- この方法だと採りたい対象を細かなところまで画仙紙に写すことができ、採取対象を墨で汚さず大切な対象の拓本をとるときに最も適している。

（必須アイテム）

油性の墨 にじまず、むらのない、きめ細かな拓本をとることができる。

画仙紙

たんぽ 採取対象に霧吹きで画仙紙を貼りつけるとき使用 1ヶ

墨で画仙紙に凹凸の凸に墨付けするとき使用 1ヶ

合計最低2ヶ必要

バケツ、たわし、タオル、はさみ、はがしやすいテープ、水

堀田仁助の「由緒書」この項が生年 1745 年の根拠

岡主許被仰達候
一、同九丙戌年九月、私儀生年八十二才相成、老衰仕、病身ニ相成候ニ付、御在所江罷帰、親族共江逢対仕度段

公儀御大文中様
此方様御役人中江御敷申上候処、御間濟有之、十二月廿一日、年来御用向相勤候由ニ而、新知六拾石被下置候段、於御前 御直ニ被 仰渡候、畢而於御用席、來春 御在所江被差帰候段、山路左膳被仰達候

一、宝曆九己卯年々当文政九丙戌年迄、年数六十八年相勤申候
一、文政十丁亥年四月朔日、
殿様御年賀為御候、御料理并御目録金老兩被下置候
一、同年六月朔日、御在府中出精相勤并神田橋 御役ニ付御無人之趣精勤仕候由ニ而、御目録金三百疋被下置、來ル三日被差帰候段、山路左膳被仰達候、其後三日出立仕、閏六月廿四日帰着仕候

(表紙)
一、清書、英之進請合
由緒書繼
調濟 堀田仁助
本書認濟 岡主 采助

一、文政三庚辰年六月三日、御留守中出精相勤候由ニ而、御目録金百疋被下置候
一、同四辛巳年四月十八日
賢躰院様御遺言も被為 在候由ニ而、御紋付御小袖被下置候
一、同五壬午年六月、御留守中出精相勤候由ニ而、御目録金百疋被下置候
一、文政六癸未年六月、御在府中出精相勤候由ニ而、御目録金百疋被下置候
一、同八乙酉年五月廿七日、年来出精相勤候由ニ而、式人扶持御増被下置候段、大

『史料紹介「蝦夷地開発記」と堀田仁助の由緒書』古代文化研究第 17 号所収 岡 宏三より引用
27 頁 上・下段

一、^{みずのとひつじ}文政六 癸 未 年六月、御在府中出精相勤候由ニ而、御目録金百疋被下置候
一、^{きのととり}同八乙 酉 年五月廿七日、年来出精相勤候由ニ而、式人扶持御増被下置候段、大
一、^{どくひのえいぬ}同九丙 成年九月、私儀生年八十二才相成、老衰仕、病身ニ相成候ニ付、御在所
文政九年（1826）九月 82 歳から
1826-82=1744+1=1745・・・江戸時代は数え年なので 1 歳足す。
生年 1745 年 ⇒ ^{えんきょう}延 享 二 年 ^{きのととし}乙 丑

文政12己丑1829	8.9 夜木星東咸 4 合伏、足立信順測	2.16 高橋景保没(45)	沙門潮音「撰製邪網編」附録 1 冊刊
	9. 日食、間重新測	5.13 松平楽翁没(72)	石黒信由「地理測量」、「加減代乗除表起源」を著す
	4.26 山路譜孝に高橋景保取扱いの闡書和解御用当分取扱いを命ぜらる、訳員は宇田川父子、杉田、青地、大槻の 5 人	6.16 近藤守重没(59)	狩谷掖斎「本朝度量權衡攷」間重新「上編二均定加減法図解」1 冊を著す
	9.25 シーボルト国外追放	9.5 堀田泉尹没(85)	「宝曆雜書万々載」1 冊刊
	3.21 神田より出火、江戸大火		青地林宗「気海観瀾」1 冊刊 橋南谿「北窓瑣談」後編 4 冊

(近世日本天文学史年表 (下) 37/58 頁)

文政 12 己 丑 1829 ^{つちのととし}9.5 堀田泉尹没 (85)。 1829-1745=84+1=85 数え年なので 1 歳足す。
没年 1829 年 9 月 5 日 85 歳

[《トップページへ》](#)

由緒書以外で堀田仁助^{てびかえ}の手扣の文書検索ヒット。

<https://dl.ndl.go.jp/>

国立国会図書館デジタルコレクション
図書館送信サービス利用



キーワード覧 郷土資料分類目録 (スペース) 函館図書館 入力クリック



書誌情報 18



下にスクロール (第2分冊まで)



市立函館図書館蔵郷土資料分類目録 **第2分冊**

図書
函館図書館, 1967

10 件以上の該当箇所。資料閲覧画面の全文検索タブで検索してください。

著者 (NDLNA) : 函館図書館 (函館市立)

第2分冊

コマ 62 　　にあり (簡単な説明)

図書館送信サービス利用可能 「はつかいち市民図書館」にて閲覧申し込む

《幻空雑記 閲覧結果》

(内容：郷土資料分類目録とあるように、目録の簡単な説明のみであった)

[寛政11己未年6月27日 神風丸御船に而て出帆 東蝦夷アツケシへ渡りそれ夫より陸地松前通
り津軽南部仙台え掛り11月15日江戸へ着したる天文方しぶかわもんど渋川主水手伝 堀田、鈴木両名の紀
行]

函館中央図書館に確認すると、「幻空雑記」は当館唯一所蔵の貴重資料に付、当館へ出向き手続きすればマイカメラでの写真撮影は可能とのこと。「幻空雑記」は著者堀田仁助とあり、由緒書に次ぐ堀田仁助の手扣(てびかえ)との期待もあったが、写本「蝦夷地開発記」1804年成立(昭和7-8年発見)と類似したものと推測。函館中央図書館唯一の史料入手は不可能と判断、断念することにした。

げんくうざっき
「幻空雑記」

(国内唯一所蔵 函館中央図書館検索)

image not available	書名	幻空雑記	
	著者	堀田 仁助	
	出版者		
	出版年	1799	
	分類	K290	形態

←
所蔵件数は1件です。

No.	所在場所	置き場所	分類	図書記号	巻冊記号	資料コード	形態	状態	禁帯
1	中央図書館	貴重書庫	K290	87	5005	1810637072	郷土資料	在架	禁

《レファレンス事例》提供釧路中央図書館。

質問「寛政11年(1799)年に最初に測量に基づいた北海道地図を制作した堀田仁助が、9/9頃にクスリ会所を訪ねている。地蔵建立」という記載があるが、会所近くに地蔵堂もしくは地蔵菩薩を安置する寺院が建立されたと思われる。その手がかりを探している。」の参考資料に『『蝦夷往来(第9号,復刻版)』北海道出版企画センター, 1972.10, (p,109-111『蝦夷地開発記』鈴木周助/著について 堀田仁助の紹介と『北海道史』や『休明光記』の間違いを指摘)と一部図書館で認識されていることを知った。

[【目次へ戻る】](#)

[《トップページへ》](#)

[お主サイトトップページ](#)